

科目名 (科目番号)	病理学総論 (時間割参照)	教員名	可知 謙治	学科等	看護	必修	履修年次	1
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
				授業形態	講義	オフィスアワー	D302研究室	
授業概要	的確な看護を行うために、病気の原因や経過について正確な知識が必要であることを理解する。生命現象の異常状態下での表現である各種疾病について、その原因、発症、進展の様相、転機を形態的变化、機能的変化の両面から系統的に理解する。							
目的・目標	1) 疾患の基本的病態を系統的に説明出来る。 2) 病態の発生機構と関連因子についての説明出来る。 3) 病理学的用語を理解し正しく使える。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	細胞の損傷と適応（1）	到達目標:細胞、組織の萎縮、変性、細胞死(壊死、アポトーシス)、物質沈着について知る。 学習内容:障害因子によって起こる受動的な細胞組織の変化について学ぶ。					
	2	細胞の損傷と適応（2）	到達目標：創傷の治癒と肉芽組織、異物の処理、細胞の再生、肥大と過形成、化生について学び理解する。 学習内容：病因の侵襲に対する細胞や組織の能動的な変化について学習する。					
	3	炎症	到達目標:炎症は、組織像の特徴により滲出性炎、増殖性炎、特異性炎等に分類され、それぞれの特徴について知る。 学習内容:炎症とは、組織に損傷を与える様な刺激に対して起こる組織の反応を言い、生体組織の防御反応であることを学ぶ。					
	4	免疫	到達目標：免疫の基本的な事柄について学びさらに免疫が関与するについて理解する。 学習内容：免疫とは、自己成分と正常では体内に存在しない物質（非自己）を区別し非自己を排除する生体の維持に重要なシステムである。病理学的に重要なのは、生体の恒常性の維持を担っている免疫が生体にアレルギーや自己免疫疾患等の障害性を示すことでありこれを学ぶ。					
	5	循環障害（1）	到達目標：浮腫、充血、うっ血、出血、止血等について知る。 学習内容：血液系、リンパ系の異常によって生ずる病変について学ぶ。					
	6	循環障害（2）	到達目標：血栓症、塞栓症、梗塞、高血圧、DIC、ショック等について学ぶ。 学習内容：血液系、リンパ系の異常によって生ずる病変について学ぶ。					
	7	先天異常と遺伝性疾患	到達目標：主に染色体の異常によるもの、単一遺伝子の異常によるもの、多因子遺伝子疾患について理解する。 学習内容：先天性異常とは、生まれた時にすでに存在している異常を言う。原因には、胎生期における環境因子の影響によるものと、遺伝子や染色体の異常によるものが有る事を学ぶ。					
	8	腫瘍	到達目標：悪性腫瘍には、がんと肉腫が有り、その相違について理解する。 学習内容：腫瘍とは、細胞増殖を制御する正常の機構から逸脱し、自律的に（無目的、無秩序、無制限に）増殖をする組織である。腫瘍には、良性和悪性が有り、その違いについて学ぶ。					
成績評価の方法・基準	対面時、オンライン時ともに期末試験の成績（100%）で評価する。							
教科書	系統看護学講座 病理学			大橋健一 他		医学書院		
参考図書	カラーで学べる病理学			渡辺照男 編		スーヴェルヒロカワ出版		
教員からのメッセージ	解剖生理学を基礎として、疾患による組織の形態的变化を中心に病態や症状について学びましょう。身近な病気を理解し、予防に取り組むことで、自分自身や家族の健康維持に役立てましょう。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスでシラバスの変更を周知します。							